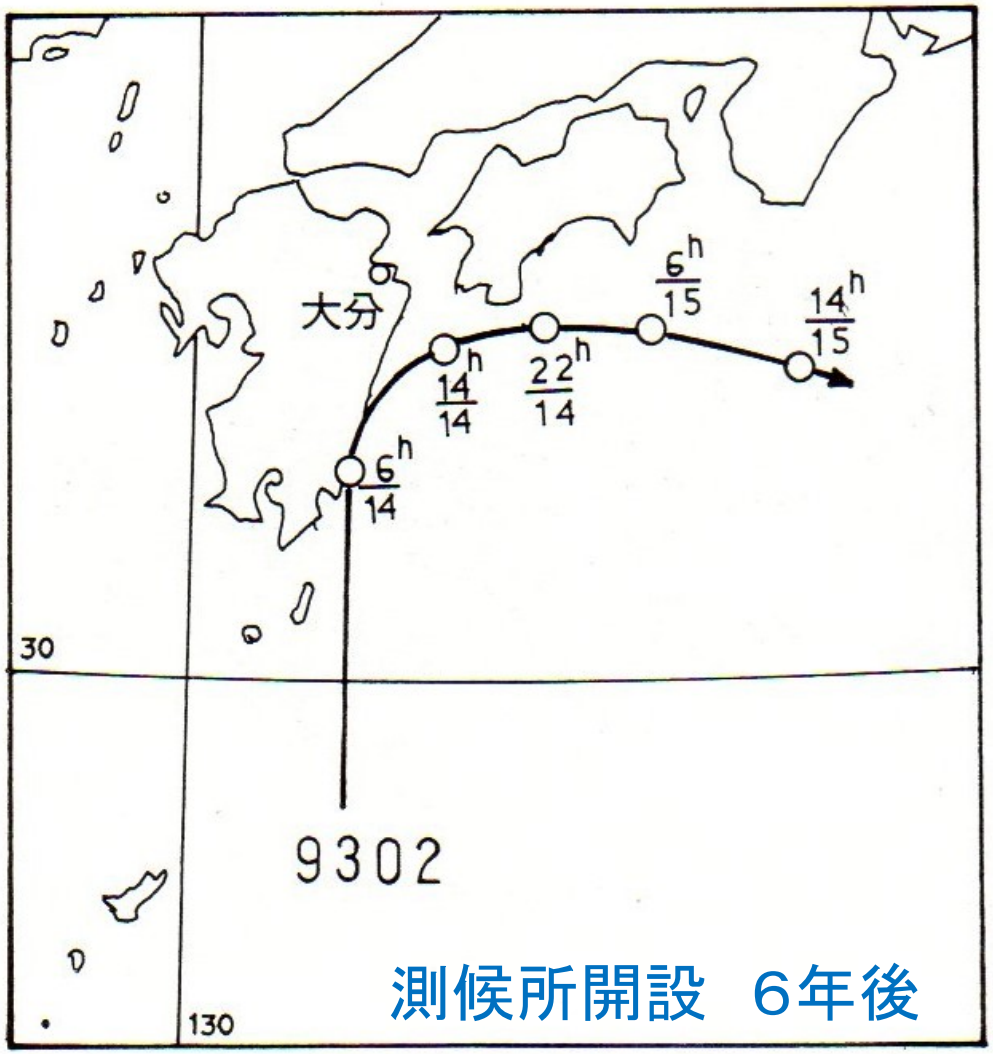
どこが危ない?
Oita City Flood Hazard Map
大分市洪水ハザードマップ
5m～10m
3m～5m
0.5m～3m
～0.5m
大分川
大分川　2日間 538ミリ　48時間 911ミリ



測候所開設　6年後

当時　県下は　280町村
　　99%の276町村被災

大分川・大野川・駅館川
山国川流域　　特に被害大

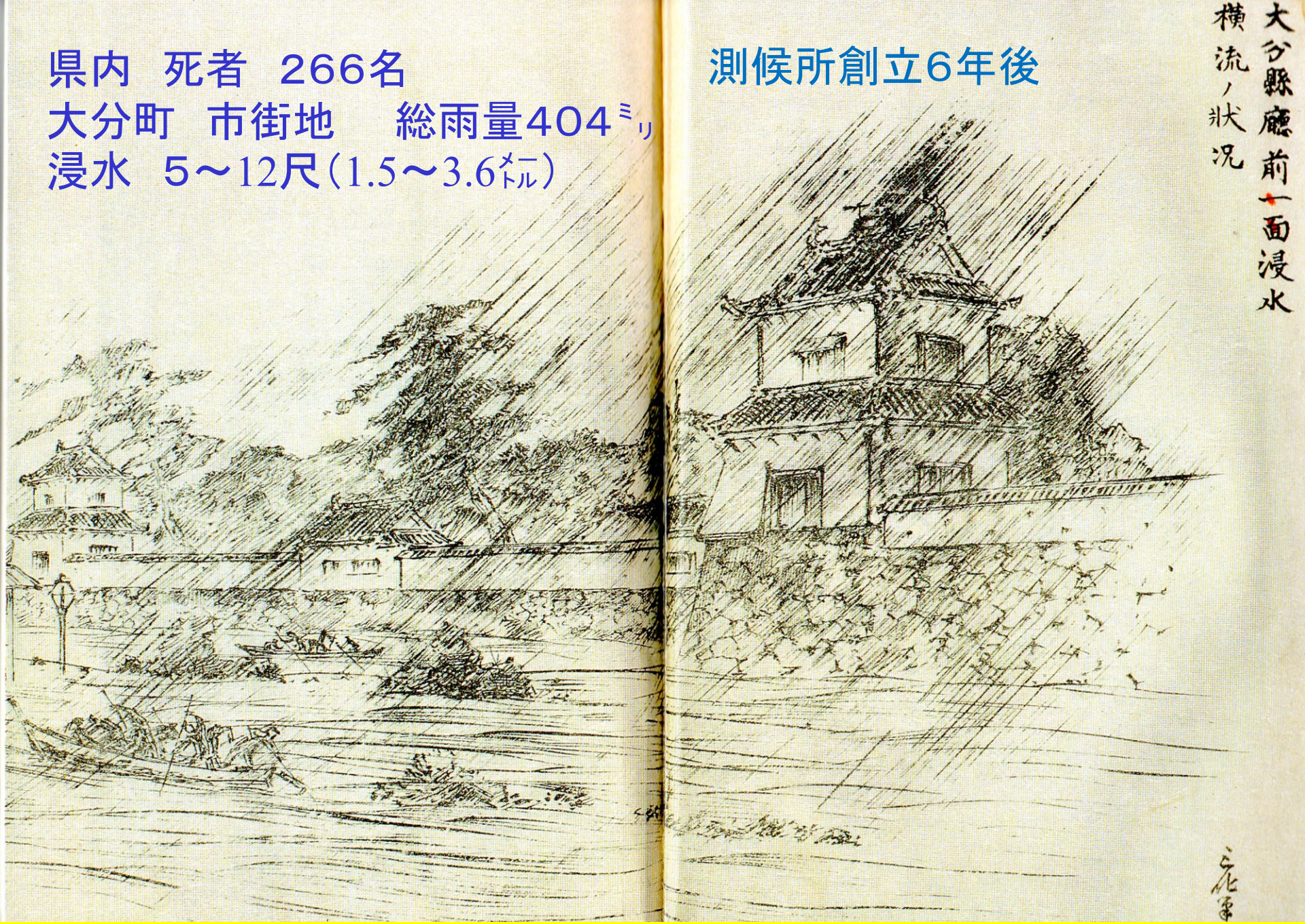
大分・中津・臼杵・佐伯の
　平野部の町並み　水浸し

死者・不明者　　266名
家屋の全壊・流失　1846棟
堤防破損　　5111か所
崖崩れ　　10308か所

明治26(1893)年10月13～14日　　台風2号
　14日10時30分　984.7hPa　　北東18.6m/s
　総降水量　404.6ミリ　　14日午前中　250ミリ

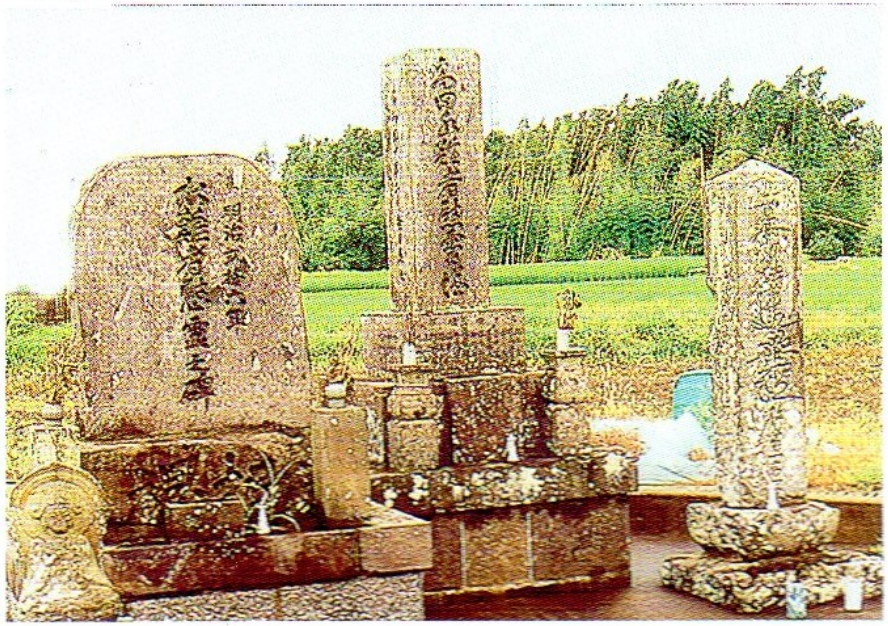
県内　死者　266名
大分町　市街地　　総雨量404ミリ
浸水　5～12尺（1.5～3.6メートル）

測候所創立6年後



大分県廳前一面浸水横流ノ状況　1893年（M26）10月13～15日台風　矢野三化　県立図書館蔵

水難慰霊碑



明治26年(1893)の大洪水で水死した鶴瀬78人の供養に再建されました。元は大野川の堤防上にありましたが、昭和18年の台風で流失しました。
ところが建設中の鶴瀬自動車学校の建設現場から碑の一部が出土し地元と自動車学校と相談の上再建されました。

水難横死生徒の碑

明治26年(1893)10月14日洪水で横死した児童八名の追悼のために旧高田小学校のあった下徳丸字屋敷に建立され、その後学校の移転に付属して現在の高田小学校の地に移されました。
碑文は毛利莫(さざむ、毛利空桑の3男)

舞鶴橋流失

湯布院　818ミリ
昭和28年6月25～29日
死者・行方不明　84名
家屋全壊・流失：1807棟　堤防決壊：1825箇所
写真：大分地方気象台

写真：大分河川国道事務所より

大分川流域　死者１１名　負傷者　５６名　流失家屋７８戸
全半壊家屋３６０戸　　床上浸水１２９８戸　　床下浸水８９９４戸

平成16年10月20日 大分市錦町